

第50回 1/1000宇宙戦艦ヤマト(バンダイ)の巻



大和の次がヤマトというのは至極当然の成り行きでしょう。「宇宙戦艦ヤマト」という作品がなかったら、この歳になるまで模型を作っているということはなかったかもしれません。いわゆる「ヤマトブーム」の時、私は小学生。テレサのパネル付ヤマト(絶版)を買ってもらい部分塗装したのが、(多分)アニメプラモの塗装初体験だと思います。しばらくして発売されたメカコレクションがなかなか入手できなかったり、クラスの友達の持っていた高速中型空母に衝撃を受けたり、雑誌に載っていたコズミックモデルをいつか購入しようと貯金を始めたり、思い出には事欠きません。

今回取り上げる1／1000ヤマトは、市販されたヤマトのプラモデルの中では最も開発年度が新しいキットとなります。とはいってもそれは1983年という、もう四半世紀も昔のことです。「宇宙戦艦ヤマト完結篇」の公開に合わせ、有終の美を飾るべく決定版のヤマト模型を世に送り出そうというバンダイの熱意が感じられる突然のキット化でした。このキットの大きな特徴は、喫水線の上下で分割されていてイスカンダルの海等で印象的なウォーターライン(洋上航行、要するに普通の船の状態)を比較的容易に再現できるようになっていたことです(しかしながらその場合にはエンジンノズルを切断する必要があり、しかもそれは決して簡単ではない作業となる。全く余談ながらフジミの1／700海底軍艦ではこの辺りのコンパチパーツが充分に用意されており、1／1000ヤマトに学んだ仕様となっている)。その他にも主砲身が上下に可動出来る様になっていたり本体に穴を開けずに飾り台に載せることが出来る様になっていたり、それまでのキットの欠点を克服しようとする姿勢が随所に見られるキットです。1／1000というスケールは初期に販売していたゼンマイ走行ヤマトのサイズから決定されたようです(既にキット化されていたアルカディア号と同スケールになっており1／1000のマクロス艦を武装強化できます)



キットデータ	
メーカー	バンダイ
スケール	1/1000
当時価格	700円(税抜)

ヤマトのキットも数多存在しますので、例によって歴代キットの比較と参りましょう(左はクリッカブルマップとなっています)。価格は発売時のものです(一部キットはyabochan様より借用して撮影しました。いつも有難うございます)。

(1)1/500コズミックモデルヤマト(3800円) 比較的初期に発売されたキット。大スケールで細部まで再現されている(舷側8連装ミサイルのモールドがあるのはこのキットだけ)。但し、一部部品がイメージモデルヤマトと共に用されている為副砲のサイズが前後で異なっていたりするのが残念。アナライザーハウジング箱が付属するのも特徴。

(2)メカコレクションヤマト(100円) 箱スケールでおよそ1/2000。プロポーションは比較的良好(真剣に作ろうとすると結構大変だが...)。飾り台から取り外し出来るのが嬉しかった。現在は200円(+税)で販売。メカコレ5個を詰め合わせたパノラマセットも最近再販された。

(3)1/700ニューメカニックモデルヤマト(2000円) 「さらば宇宙戦艦ヤマト」の頃に発売されたメカニックモデルを、劇中の改装に合わせてアップデートしたもの。左舷の外装パーツも付属し、完成後も着脱が可能。艦首下部のレーダーを展開できるよう、艦底パーツの裏側に凹モールドが追加された。

(4)1/700ヤマト(1500円) (3)の内部メカを省略して求め易い価格としたもので、「宇宙戦艦ヤマト完結編」の時に発売された。ウォーターラインシリーズの豊富なアフターパーツを組み合わせることが出来るのが強み。2010年にはボックスアートを変更して再販されている。

個人的には、2005年から約1年掛かりで大改修した1/700キットの製作でヤマト模型に一応の決着を付けることが出来たと思っています。でもメカコレサイズのもの欲しいしこの1/1000だって...「我々にはまだヤマトがある」一体何隻買ったんだか(爆)。